

志澤レポートNo. 1 (理事/HG東日本ボランティアリーダー)

会員の中でもあまり知られていませんが、カンボジアにある「ハート・オブ・ゴールド睦日本語教室」と「宮城県石巻の子どもたち」は以前より交流があります。今回、震災による大きな被害が発生した中で、事務局はその活動の中心人物である小学校教諭の木村先生を必死で探しました。震災から1週間を過ぎた頃、ようやく先生を探しあて、先生と電話連絡ができました。偶然にも日本語教室の桧尾睦先生が一時帰国されている中で、先生のご健在を喜び、被災地での情報を詳しくお聞きすることができました。その後、連日電話やメールで被災地の状況や避難所での子供たちの様子などの連絡が事務局に届いております。

HGの協力組織である日本警察消防スポーツ連盟の事務局を担う私は、被災地の行方不明者の第一回目の捜索活動を実施するため、ハート・オブ・ゴールドからの支援物資の搬送も兼ねて4月7日から12日まで、仙台市経由にて石巻市に入りました。活動の合間には先生を訪問して様々なお話をさせていただき、先生の職場でもある小学校内の避難所と、多くの子どもたちを含む被災者の生活の様子も視察させていただきました。

学校自体が避難所になっているため、被災者の衣食住の準備や支援、子どもの安否確認、学校（機能）の開始準備、他機関との連絡調整・対応などは勿論、ご自身の自宅も津波により流されてしまったため遺留品や貴重品を探しに行かれたりと非常に大変な状態です。正に無休の忙しさを活動されていました。

先生からの希望として『取りあえず何でも、どなたでも、少しでも来てほしい。するべき事が山のようにあり、特に子どもたちの支援は早急な着手が必要です』と言われました。

HGはそのニーズに応えなければなりません。善意の押し付けでなく、そのニーズに応えるために適切な支援が継続できるよう現地に入り、細かい調整を実施して被災者の方たちにとって“本当に必要なこと”、“しなければならないこと”を確認する必要があると考えています。これは近日中に実施し、その後皆さまにご報告いたします。

そこで、現地との連絡・調整はHG本部事務局が進める事として、現地に入っただくボランティアさんを募集します。ボランティア登録票を提出していただいた後、覚書を交わして準備を進め、現地に入ってボランティア活動をしていただきたいと思います。

ボランティアに入るにあたり気を付けることも学びながら活動することが出来れば、大変意義深く、意味のある効果が生まれます。またとない実践トレーニングともなるでしょう。

HGでは、

子どもたちに視点を合わせて

学校復興が出来るよう

先生たちと協力して

「できる人が、できる事を、できる限り続けよう」

という立場で、活動できるように進めます。

復興の最も大きな柱となるのは、「教育」です。昔からいつの時代も、日本の発展を支えたのは「教育」の力でした。明日を担う子ども達へ、そしてそれを支える現場の先生たちのお力になりたいと願っています。カンボジアの活動も、人材育成、教育です。同じく「3.11 子ども amino プロジェクト」も教育に視点を置いて活動してまいります。

我々が出来ることは小さなことですが、継続して続けることで、大きな力になると信じています。

下記は木村先生からカンボジアの日本語教室で交流していた子どもたちへのメッセージです。

記

「心配かけてごめんなさい。明子先生は、津波で家がなくなりました。でも、生きています。生まれた家に戻って元気に働いています。畠山先生，千葉先生，千田先生も生きています。檜尾先生から，むつみ日本語教室のみんなのことを聞きました。日本語を一生懸命勉強したり，先生たちが教えた『キャベツの中から青虫出たよ』を歌ったりしているそうですね！とてもうれしいです。明子先生は，またむつみ日本語教室へ行き，みんなに会うことを夢見ています。地震や津波に負けないで頑張ります！」

現在、カンボジアの日本語教室の子どもたちは、木村先生たちにお見舞いと励ましの手紙を書いているそうです。先生たちにお届けする日も近いと思います。(檜尾先生からのお知らせ)